



クラスタ拡張—コンバージド ノード

・ [クラスタ拡張—コンバージド ノード](#) (1 ページ)

クラスタ拡張—コンバージド ノード

始める前に

- ・ コンバージド ノードは、クラスタ作成後に追加できます。
- ・ この手順には、Windows オペレーティング システムのインストールも含まれます。
- ・ クラスタを展開する前に、Windows ISO ファイルが使用可能であることを確認してください。
- ・ 3.5 (2a) よりも前のリリースで稼働している Hyper-V クラスタの場合、クラスタ拡張はコンバージド ノードでのみサポートされます。

ステップ 1 Cisco HX Data Platform のインストーラを起動します。

ステップ 2 ログイン ページで、次のクレデンシャルを入力します。

[ユーザー名 (Username)] : root

パスワード (デフォルト) : Cisco123

(注) システムに同梱されているデフォルトのパスワード Cisco123 は、インストール時に変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。

ステップ 3 [利用規約に同意します (I accept the terms and conditions)] チェックボックスをオンにして、[ログイン (Login)] をクリックします。

ステップ 4 [ワークフローの選択 (Select a Workflow)] ページで、[クラスタ拡張 (Cluster Expansion)] を選択します。

ステップ 5 [クラスタ (Cluster)] ページで、次のフィールドに入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。

フィールド	説明
[クラスタ管理ホスト名 (Cluster Management Hostname)]	既存のクラスタのホスト名。
[ユーザー名 (User Name)]	既存のクラスタの管理者ユーザー名。
[パスワード (Password)]	HX クラスタの管理者ユーザーのパスワード。

ステップ 6 [クレデンシャル (Credentials)] ページで、次のフィールドに入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。

フィールド	説明
UCS Manager クレデンシャル	
UCS Manager ホスト名 (UCS Manager Hostname)	Cisco UCS Manager の FQDN または IP アドレス。
UCS Manager User Name	管理者ユーザーまたは Cisco UCS Manager の管理権限を持つユーザー。
Password	UCS Manager のパスワード。
ドメイン情報	
[HX サービスアカウント (HX Service Account)]	既存のクラスタに関連付けられた HX サービス アカウント。
[パスワード (Password)]	HX サービス アカウントのパスワード。
制限された委任	
[制限付き委任を今すぐ設定する (推奨) (Configure Constrained Delegation now(recommended))] または [制限付き委任を後で設定する (Configure Constrained Delegation later)]	いずれかのチェックボックスをオンにします。 制限された委任は、VM ライブ移行に必要です。制限付き委任を後で設定する場合は、「 ライブマイグレーションとVM ネットワークの静的IPアドレスの設定 」で説明している手順を使用してください。
[HX サービスアカウントのパスワード (HX Service Account Password)]	制約付き委任 (Constrained Delegation) に必要です。
HX サービスアカウントを使用	HX サービス アカウントが提供されている場合は、チェックボックスをクリックします。 オンにすると、制限付き委任に HX サービス アカウントが使用されます。ユーザーはドメイン管理者である必要があります。
[ユーザー名 (Username)]	ドメイン レベルのユーザー名を入力します。

フィールド	説明
[パスワード (Password)]	ドメイン レベルのパスワードを入力します。
ハイパーバイザのクレデンシャル	
[ローカル管理者アカウント (Local Administrator Account)]	Hyper-V ホストのローカル管理者ユーザー名。
[パスワード (Password)]	ローカル管理者アカウントのパスワード。

ステップ 7 [ノードの選択 (Node Selection)] ページの [関連あり (Associated)] タブと [関連なし (Unassociated)] タブで、すべての関連付けられているサーバーと関連付けられていないサーバーをそれぞれ確認します。
 [関連なし (Unassociated)] タブでは、既存のクラスタに任意のノードを追加できます。
 [関連あり (Associated)] タブでは、既存のクラスタからサーバーの関連付けを解除できます。

ステップ 8 [UCSMの設定 (UCSM Configuration)] ページで、既存のクラスタの VLAN 設定と MAC プール情報に関して自動入力される詳細情報を表示または変更します。次に、[続行 (Continue)] をクリックします。

ステップ 9 [ハイパーバイザの設定 (Hypervisor Configuration)] ページで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[ハイパーバイザ (HYPER-V) のインストール (Install Hypervisor (Hyper-V))]	このチェックボックスは、デフォルトでオンになっています。 チェックボックスを選択したままにして、OS のインストールとネットワークの設定を有効にします。[参照 (Browse)] をクリックし、ISO ファイルを選択してアップロードします。または、ISO ファイルをそのエリアにドラッグアンドドロップします。 [インストールするオペレーティングシステムの選択 (Select the Operating System you wish to install)] から、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2016 Datacenter (デスクトップ エクスペリエンス) • Windows Server 2016 Datacenter (Core) • Windows Server 2019 Datacenter (デスクトップ エクスペリエンス)

[続行 (Continue)] をクリックします。

ステップ 10 [ノードの設定 (Node Configuration)] ページで、[コンバージドサーバーの追加 (Add Converged Server)] をクリックしてサーバーを既存のクラスタに追加します。

ステップ 11 [開始 (Start)] をクリックして展開を開始します。[進捗状況 (Progress)] ページには、設定タスクの進捗状況が表示されます。

ステップ 12 次のインストール後の手順を実行します。

- [ライブマイグレーションと VM ネットワークの静的 IP アドレスの設定](#)
 - [\(任意\) インストール後の制限付き委任](#)
 - [ローカルデフォルトパスの設定](#)
 - [Hyper-V ホストの Windows バージョンの確認](#)
-